

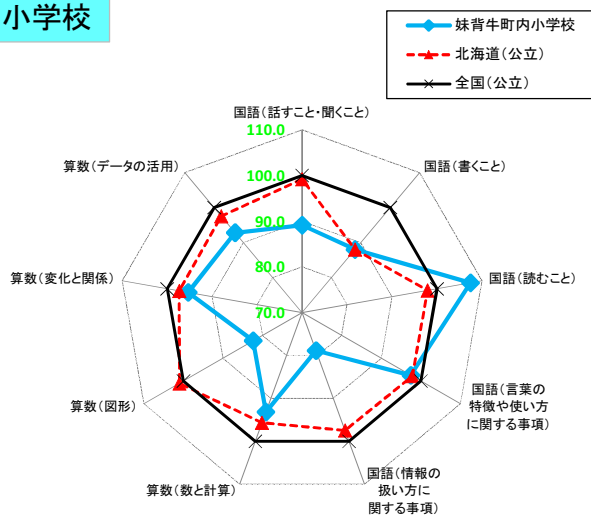
■妹背牛町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:10人）

【教科全体の状況】

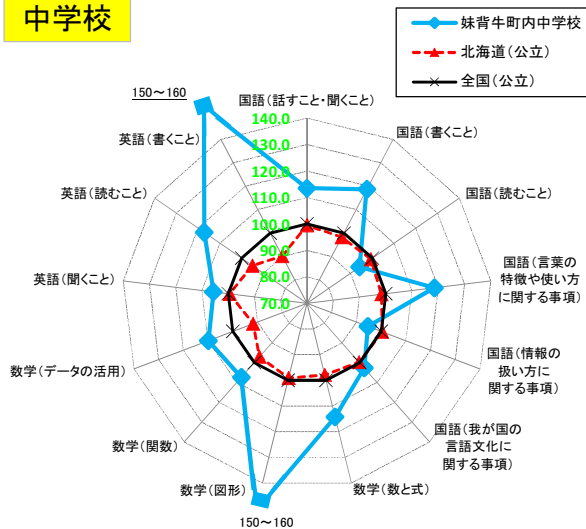
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	75
算数・数学	57	59
英語	-	54

小学校

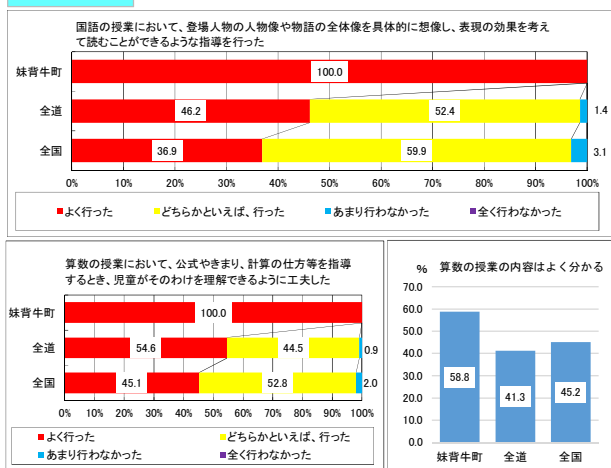


中学校

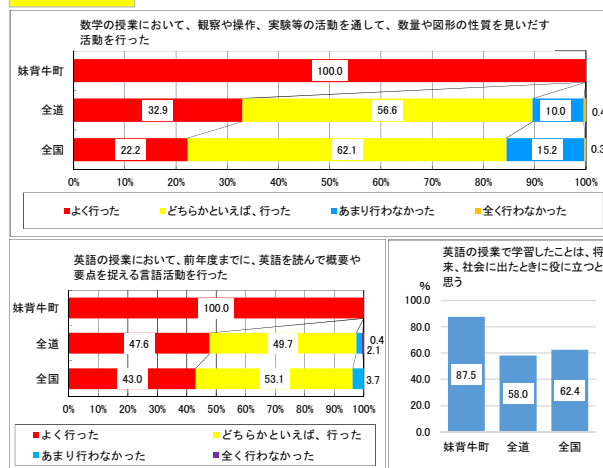


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えながら読むことができる指導をよく行ったことにより、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、算数の授業がよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形の性質を見いだす活動をよく行ったことにより、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

英語の授業において、英語を読んで概要や要点を捉える言語活動をよく行ったことにより、英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【妹背牛町の学力向上策】

- ◎ 学力の定着に向けたチーム・ティーチングや習熟度別学習での児童生徒への指導の充実
- ◎ 国語科等で育てた表現力を基軸とした、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善の推進
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業づくりの推進